

平成 18 年 5 月 17 日

マネー情報

知るぽると

金融広報中央委員会

(事務局 日本銀行情報サービス局内)

## 「子どものくらしとお金に関する調査」 (平成 17 年度)

### 「子どものくらしとお金に関する調査」について

本調査は、マネー情報 知るぽると 金融広報中央委員会（事務局：日本銀行情報サービス局内）が、平成 17 年度を金融教育元年として、学校段階での金融教育の推進に重点を置いて活動を展開する中、児童・生徒のお金にまつわる日常生活（お小遣い・お年玉・携帯電話・インターネットなど）ならびに、お金に関する意識や金融経済に関する基本的な知識などを無記名のアンケート方式により調査し、金融広報活動に役立てることを目的として実施したものです。

### 金融広報中央委員会が金融教育を推進するに当たっての示唆

#### 1) 子どもの金銭管理について（生活設計・家計管理関連）

多くの子どもたちは、小学校低学年より、いろいろな形である程度のお金を持っているのが現実である。こうしたお金の管理や使い方については比較的早い段階から考えさせることも必要である。

#### 2) 携帯電話、インターネットの普及について（消費者教育関連）

携帯電話からのウェブサイトへのアクセスが一般化し、ネットショッピング、オークションへの参加もみられている。消費者トラブルに巻き込まれる可能性もあるこうした利用方法についての留意事項などについては、早めに教えていく必要がある。

#### 3) 働くことについての関心・意識、家庭との連携について（キャリア教育関連）

アルバイトに関心を持っている中学生・高校生は多く、また、家族の会話の中では、家族の仕事、自分がつきたい仕事なども話題にしている。こうした意識・会話が働くことの意義を考え、幅広い職業観の形成につながっていくことが望ましい。

#### 4) 金融経済などに関する知識（金融や経済の仕組み関連）

金融機関の役割、金利に関する基本知識、市場の役割、契約の基本など消費生活上、必要な基礎知識に関する理解が必ずしも十分ではない。

調査結果については、金融広報中央委員会のインターネット・ホームページ（アドレス：<http://www.shiruporuto.jp/>）でも閲覧・ダウンロードすることができます。

### 「マネー情報 知るぽると 金融広報中央委員会」について

マネー情報 知るぽると 金融広報中央委員会(事務局 日本銀行情報サービス局内)は、健全で合理的な家計運営のために、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、中立・公正な立場からの正確でわかり易い「金融経済情報の提供」と一人ひとりが賢い消費者として自立するための「金融経済学習の支援」を全国的に展開しています。

当委員会は、昭和 27 年に貯蓄増強中央委員会として発足しましたが、その後時代とともに大きく変化する活動の実態に合わせ、昭和 63 年には貯蓄広報中央委員会に、平成 13 年 4 月には現在の金融広報中央委員会に名称を改めました。

金融団体・経済団体・報道機関・消費者団体等の各代表者、学識経験者、日本銀行副総裁等 40 名の委員から構成され、日本銀行情報サービス局内に事務局が置かれています。

## 目 次

【調査要綱】	.....	2
【調査結果の概要】		
1．おこづかい	.....	4
2．お年玉	.....	8
3．放課後の過ごし方	.....	11
4．持ち物・利用方法	.....	14
5．アルバイト	.....	19
6．親との会話・友だちとの会話	.....	20
7．お金についての意識	.....	24
8．金融経済の知識	.....	28

## 【調査要綱】

### 1．調査の目的

この調査は、マネー情報 知るぽると 金融広報中央委員会が、平成 17 年度を金融教育元年として、学校段階での金融教育の推進に重点を置いて活動を展開する中、児童・生徒のお金にまつわる日常生活（お小遣い・お年玉・携帯電話・インターネットなど）ならびに、お金に関する意識や金融経済に関する基本的な知識などを無記名のアンケート方式により調査し、金融広報活動に役立てることを目的として実施したものである。

### 2．調査の内容

主な調査項目は次のとおりである。なお、本調査の具体的な設問内容については、「調査結果<調査票（単純集計データ）>を参照。

- (1) おこづかい、お年玉について  
金額、もらう相手、使い道等
- (2) アルバイト・貯蓄・所持金について  
アルバイトの経験、貯蓄の有無、学校への所持金等
- (3) 放課後の過ごし方や家での手伝いについて  
部活動・学習・読書・家事・友人関係などに費やす時間、自宅で担う家事
- (4) 持ち物・携帯電話・インターネットの利用について  
専用の持ち物、携帯電話の利用金額・用途、インターネットの利用等
- (5) 家族・友だちとの会話について  
会話の内容について
- (6) お金や金融経済に関する意識や知識について  
お金にまつわる考え方や意識、金融経済の知識、諺等

### 3．調査対象校の抽出方法

調査対象校は、国内の小学校・中学校・高等学校とし、以下のような方法により募集し、調査への協力を得た。

- (1) 公募による募集（教育関係者向けセミナー等の席上で協力先募集案内を配付したほか、ホームページにて募集）
- (2) 無作為抽出法により抽出した先に協力を依頼
- (3) 都道府県金融広報委員会を通じた金銭・金融教育研究校への依頼
- (4) 都道府県金融広報委員会の依頼を受け、教育委員会が学校を指定
- (5) その他個別校への依頼

#### 4. 調査の方法

- (1) 調査対象校へ調査票を郵送し、学校において児童・生徒が自ら記入し回答（学校通しの自記式調査）。
- (2) 調査対象校のうちの無作為抽出先の受付、ならびに調査票の送付・回収、結果の集計は、(株)日経リサーチに委託した。

#### 5. 調査の時期

平成 17 年 12 月～平成 18 年 3 月

#### 6. サンプル数

本調査への協力校は 506 校、サンプル数合計は 87,447（詳細は下表参照）。

地域	小学校					中学校		高校	
	学校数	児童数				学校数	生徒数	学校数	生徒数
			低学年	中学年	高学年				
全国	163	25,144	7,205	8,786	9,153	207	34,514	136	27,789
北海道	12	1,901	613	697	591	15	1,409	7	1,224
東北	10	765	199	215	351	17	1,996	9	1,094
関東	19	3,137	559	1,181	1,397	39	7,267	40	6,197
北陸	14	3,068	951	1,020	1,097	10	866	6	1,648
中部	27	5,637	1,761	1,944	1,932	32	7,931	26	6,138
近畿	10	1,426	395	586	445	22	4,293	12	2,658
中国	9	987	321	320	346	21	1,728	6	1,225
四国	14	2,488	725	868	895	15	2,605	7	2,058
九州	48	5,735	1,681	1,955	2,099	36	6,419	23	5,547

\* 地域は、以下のように分類。

- 北海道 ..... 北海道
- 東北 ..... 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 関東 ..... 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- 北陸 ..... 新潟県、富山県、石川県、福井県
- 中部 ..... 山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- 近畿 ..... 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 中国 ..... 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 四国 ..... 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 九州 ..... 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

\*\* 小学校では、すべての学校が低学年・中学年・高学年において調査を実施しているわけではない。

本調査についての照会先

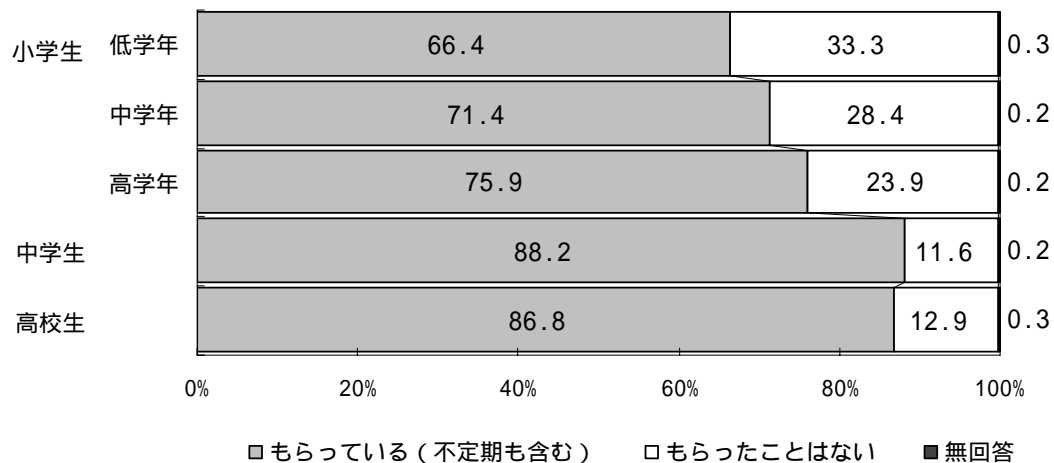
マネー情報 知るぼると 金融広報中央委員会（事務局 日本銀行情報サービス局内）  
電話 03（3279）1111（代）

# 1. おこづかい

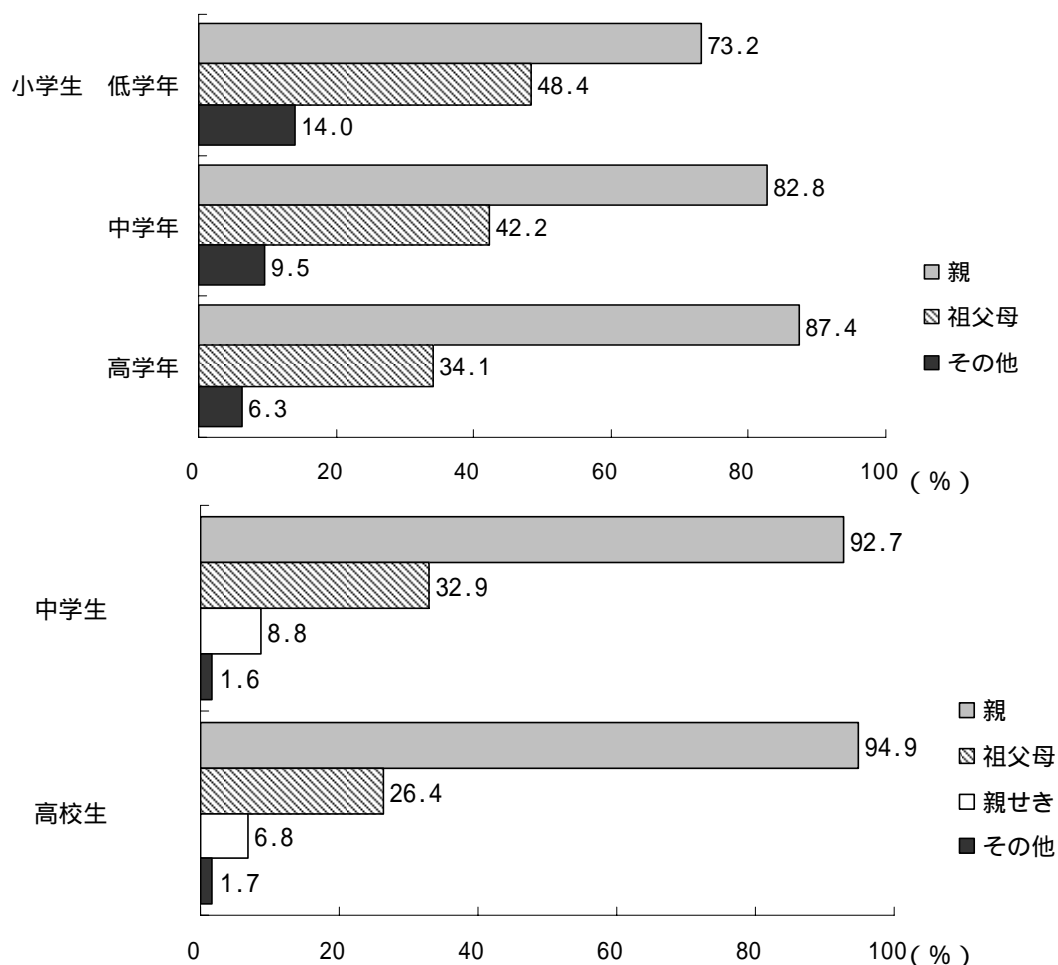
## (1) おこづかいの有無ともらう相手

・おこづかいについては、小学校低学年で7割弱、中学年は約7割、高学年は8割弱、中学生・高校生で9割弱が「もらっている」(不定期も含める)と回答【図表1】。また、祖父母からのおこづかいは、小学校低学年ほど割合が高く、中学生・高校生でも3割前後がもらっている【図表2】。

【図表1】おこづかいの有無



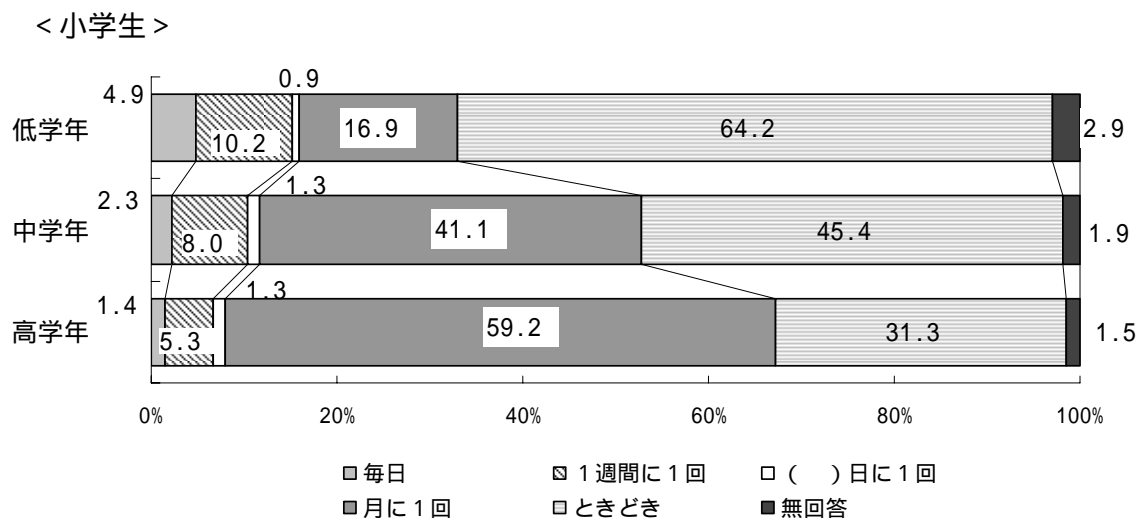
【図表2】もらう相手



## (2) おこづかいのもらい方と金額

- ・おこづかいのもらい方をみると、小学生では「月に1回」との回答が低学年で2割弱、中学年では約4割、高学年では約6割となっており、「ときどき」もらうのは低学年で6割強、中学年では5割弱、高学年では約3割となっている【図表3】。
- ・おこづかい額（1回あたり）をみると、月1回もらう場合では、小学校低学年・中学年は最も多い回答（最頻値）がともに500円、平均値はそれぞれ901円、812円となっている。これに対し高学年の最頻値は1,000円、平均値は1,122円となっている。
- ・一方、「ときどき」もらう場合では、小学校低学年・中学年の最頻値は100円、平均値はそれぞれ760円、854円となっている。また高学年では、最頻値は1,000円、平均値は1,046円。

【図表3】おこづかいのもらい方・おこづかい額



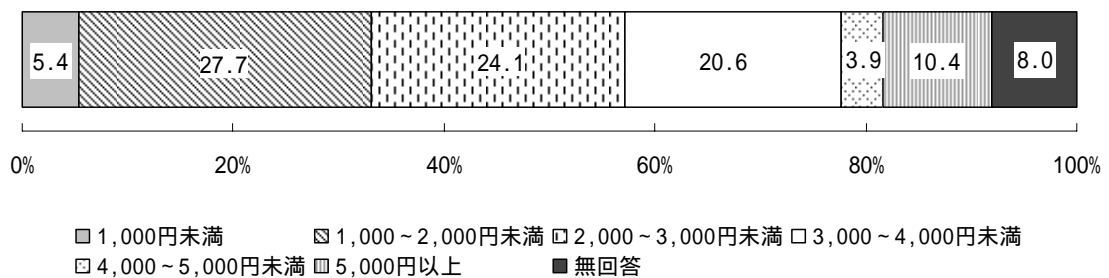
		最頻値	最も多い金額帯	次に多い金額帯	平均値	中央値
月に1回	低学年	500円	500-700円 (24.4%)	1,000-1,500円 (16.1%)	901円	500円
	中学年	500円	500-700円 (31.9%)	1,000-1,500円 (22.7%)	812円	500円
	高学年	1,000円	1,000-1,500円 (34.0%)	500-700円 (32.9%)	1,122円	1,000円
ときどき	低学年	100円	100-200円 (32.4%)	1,000-1,500円 (14.1%)	760円	200円
	中学年	100円	100-200円 (24.3%)	500-700円 (17.5%)	854円	300円
	高学年	1,000円	1,000-1,500円 (25.2%)	500-700円 (23.3%)	1,046円	550円

(注) 最頻値は最も多く回答された値。中央値は回答金額を上位から下位に並べた場合に中位(真ん中)に位置する値。

・中学生の1か月のおこづかい額は、最頻値は2,000円、平均値は2,738円、高校生では、最頻値は5,000円、平均値は5,590円である【図表4】。

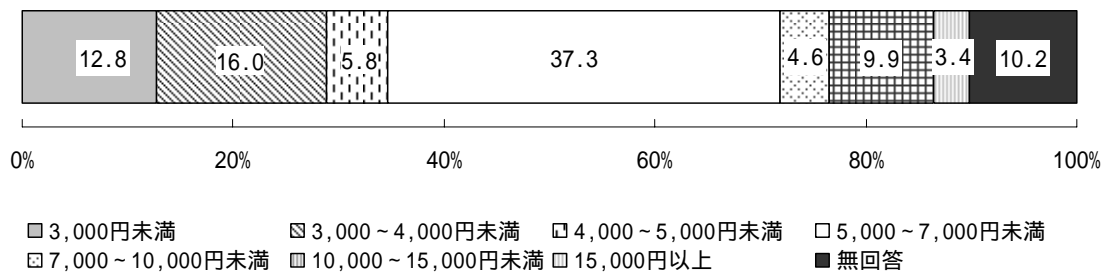
【図表4】おこづかい額

< 中学生 >



平均値	最頻値	中央値
2,738円	2,000円	2,000円

< 高校生 >



平均値	最頻値	中央値
5,590円	5,000円	5,000円



### (3) おこづかいの使い方

- ・おこづかいの使い方【図表5】は、小学生では「飲食物(おかしやジュース)」、「ノートやえんぴつなど」、「まんが」、「本や雑誌」が上位となっている。これに対し、中学生・高校生では、「飲食物(おかしやジュース)」、「まんが」、「CD・MDの購入」などが上位を占めている。学年差の大きな使い方としては、小学生では「親へのプレゼント」が上位3～5位となっているのに対し、中学生・高校生は下位に位置。一方、中学生・高校生では「友人と外食」の割合が増え、特に高校生では2位となっている。
- ・男女別では、全般に女子が「ノートやえんぴつなど」、「親へのプレゼント」、「アクセサリーや化粧品」などに使う割合が高いのに対し、中学生・高校生男子は「ゲームソフトやおもちゃ類」が極めて高い。

【図表5】おこづかいの使い方(複数回答)

(%)

		飲食物 (おかしやジュース)	ノート やえん ぴつ など	まんが	本や 雑誌	親への プレゼ ント	CD・ MDの 購入	友人と の外食 ・軽食代
小学生	低学年	(1)42.4	(2)29.7	(3)23.3	(5)15.1	(4)21.6		
	中学年	(1)55.3	(3)34.7	(2)44.8	(5)23.9	(4)33.2	8.5	
	高学年	(2)61.7	(5)34.0	(1)63.2	(3)42.6	(3)42.6	25.6	14.4
中学生		(2)72.0	(5)58.5	(1)74.0	(4)59.2	41.4	(3)59.6	56.8
高校生		(1)81.3	50.6	(4)69.8	(5)66.3	40.7	(3)70.3	(2)75.7

(注) カッコ内は各学年段階における順位。中学生・高校生では「本や雑誌」は「小説や雑誌」。

#### <男女別に見た使い方>

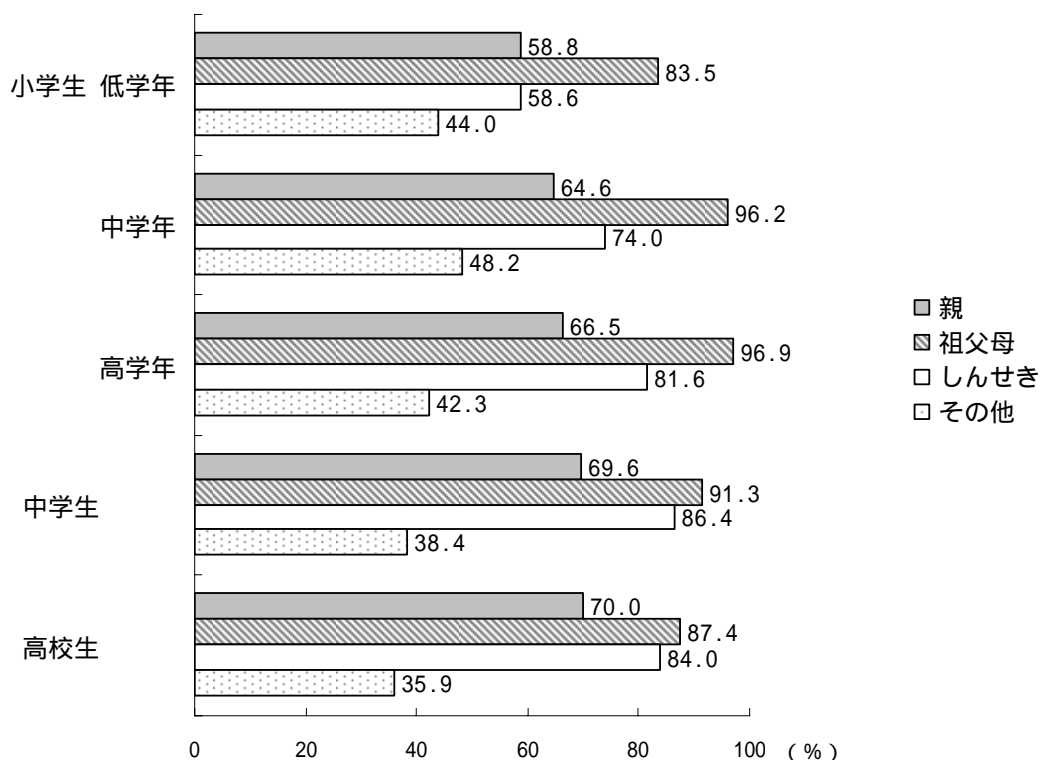
(%)

			全体	男子	女子
小学生	低学年	ノートやえんぴつなど	29.7	18.9	41.2
		親へのプレゼント	33.2	23.4	43.4
	高学年	親へのプレゼント	42.6	28.9	56.7
		ノートやえんぴつなど	34.0	21.6	46.8
		アクセサリーや化粧品	11.9	1.8	22.1
		ゲームソフトやおもちゃ類	49.2	70.2	23.9
中学生	アクセサリーや化粧品	29.1	11.0	50.8	
	親へのプレゼント	41.4	28.9	56.5	
	ゲームソフトやおもちゃ類	49.2	70.2	23.9	
高校生	アクセサリーや化粧品	53.3	28.4	73.1	
	親へのプレゼント	40.7	26.5	52.0	
	ゲームソフトやおもちゃ類	37.3	60.0	19.5	

## 2. お年玉

- ・お年玉は、小学生・中学生・高校生のほとんどがもらっている。
- ・お年玉をもらった相手としては、祖父母の割合が最も高く、小学校低学年で8割強、高校生が9割弱、小学校中学年・高学年と中学生は9割超、次いで、しんせき、親の順となっている【図表6】。
- ・金額については、小学校低学年では「10,000円くらい」との回答が最も多く（6割弱）中学年・高学年では「10,000～29,999円」（約半数）中学生の約半数、高校生の5割弱が「10,000～50,000円未満」と回答【図表7】。

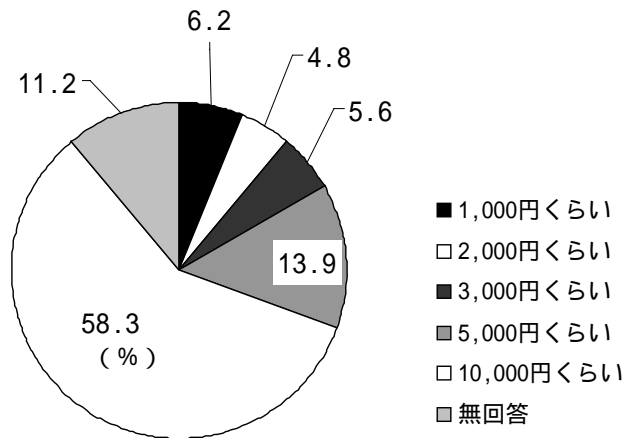
【図表6】お年玉をもらった相手（複数回答）



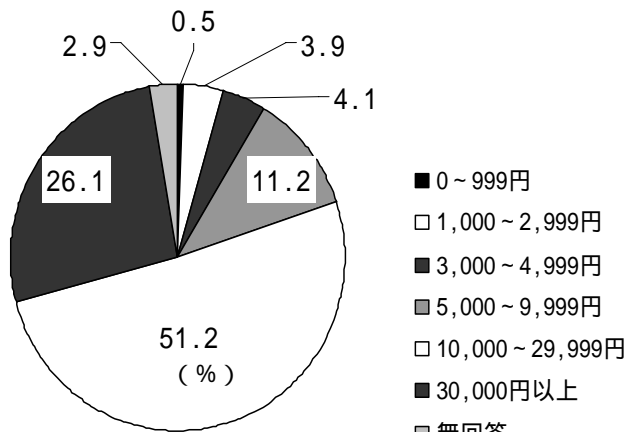
(注) 小学生では「もらった人」についての回答を集計。「しんせき」は「おじさん、おばさん、いとこ」。  
中学生・高校生については、「もらった人」別の金額欄に記入があった場合、「もらった相手」として集計（いずれも問6-2参照）。

【図表7】お年玉の金額

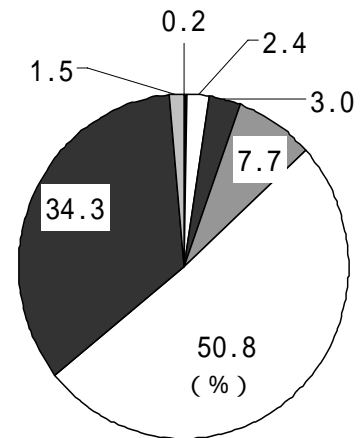
<小学生低学年>



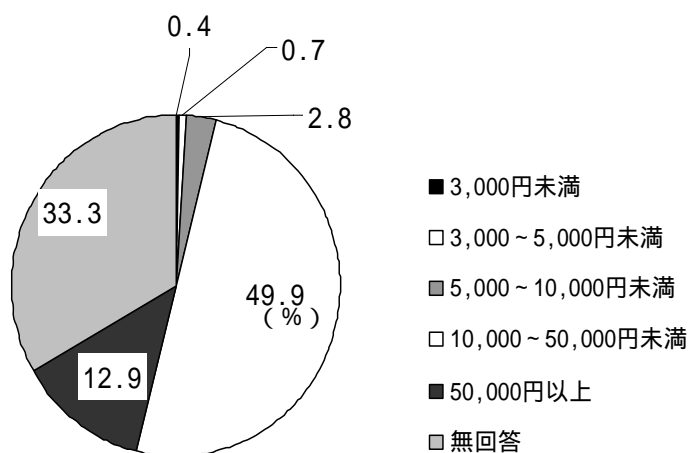
<小学生中学年>



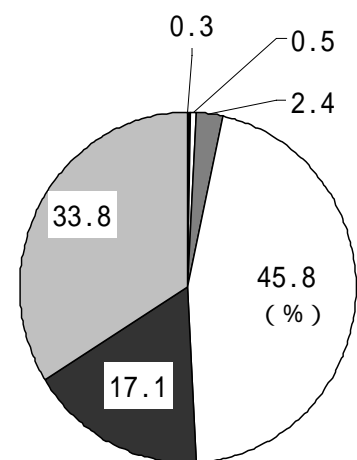
<小学生高学年>



<中学生>

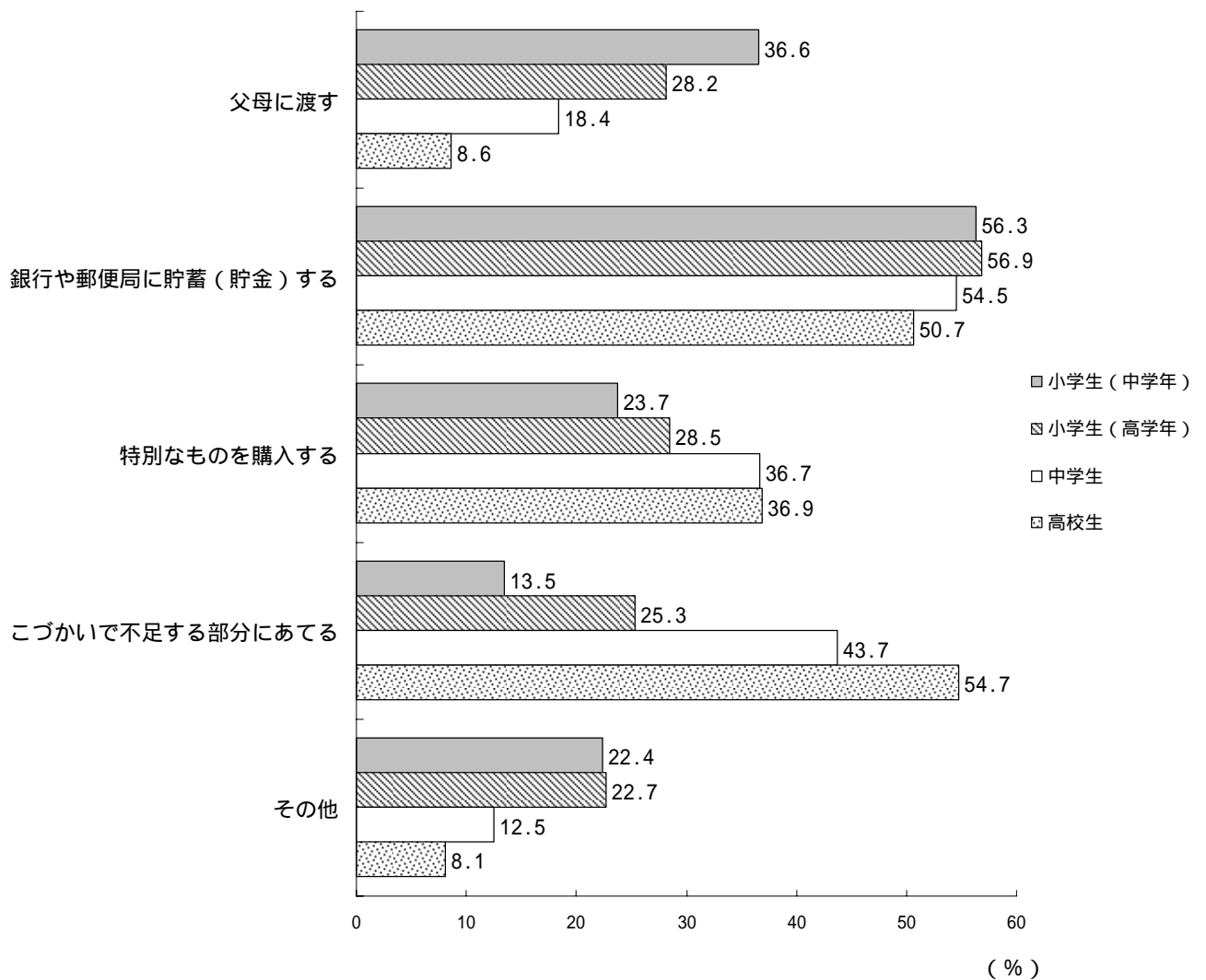


<高校生>



・お年玉の取扱いは、半数以上が「銀行や郵便局に貯蓄（貯金）する」ほか、小学生では「父母に渡す」（中学年が4割弱、高学年が約3割）、中学生（4割強）・高校生（5割強）は「こづかいで不足する部分にあてる」割合が高い【図表8】。

【図表8】お年玉の取扱い（複数回答）

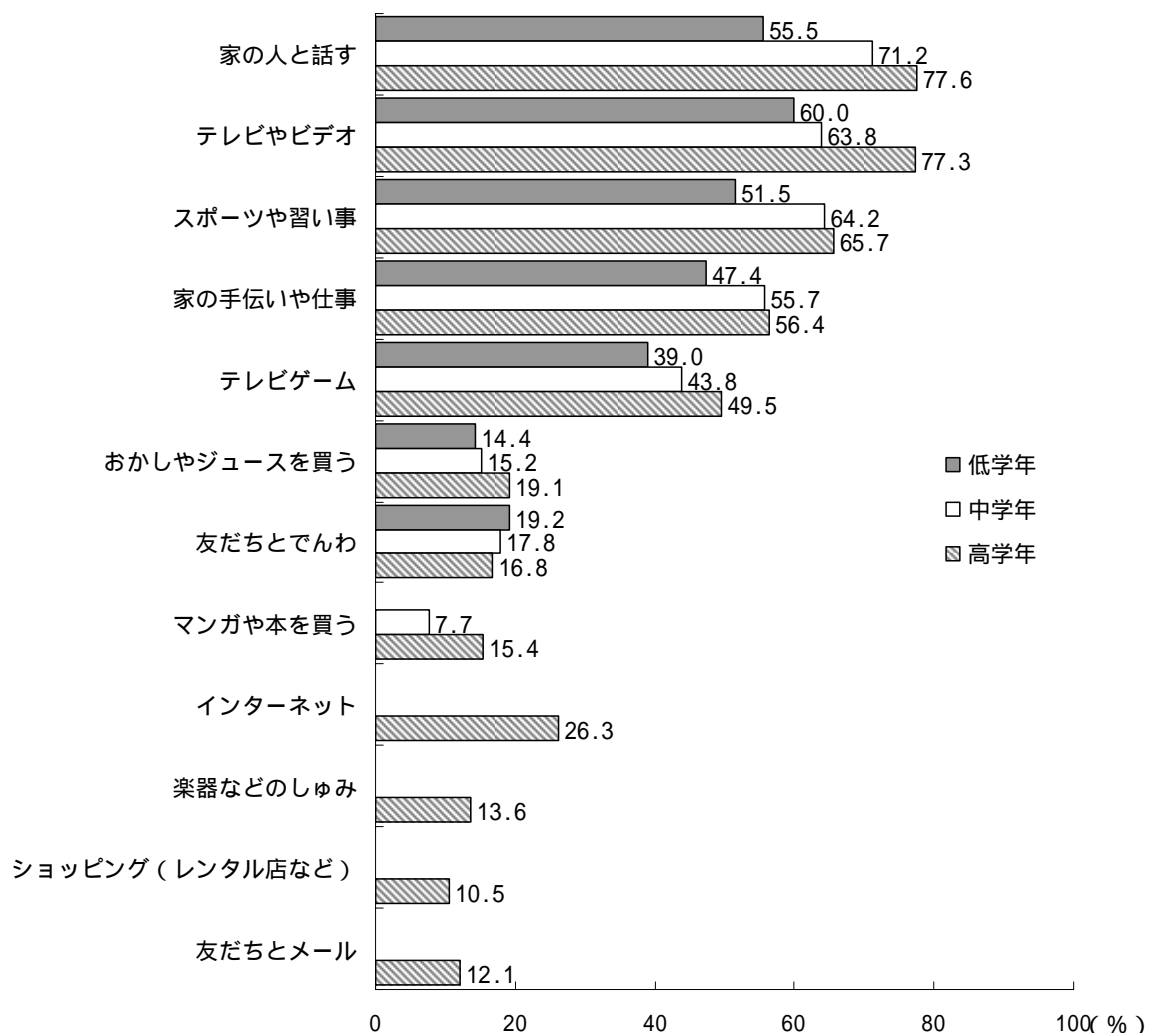


### 3. 放課後の過ごし方

#### (1) 小学生

- ・放課後の過ごし方として、小学生は「家の人と話す」(低学年6割弱、中学年約7割、高学年8割弱)、「テレビやビデオ」(低学年6割、中学年6割強、高学年8割弱)、「スポーツや習い事」(低学年約5割、中学年6割強、高学年7割弱)が高い割合となった【図表9】。
- ・「家の手伝いや仕事」(低学年5割弱、中学年・高学年6割弱)も高い割合となっているが、具体的な手伝いの内容としては、4割弱以上が「ごはんのしたく」、「皿あらい・かたづけ」、「おふろのじゅんび・そうじ」、「自分が勉強するところのそうじ」を挙げている。

【図表9】小学生の放課後（複数回答）



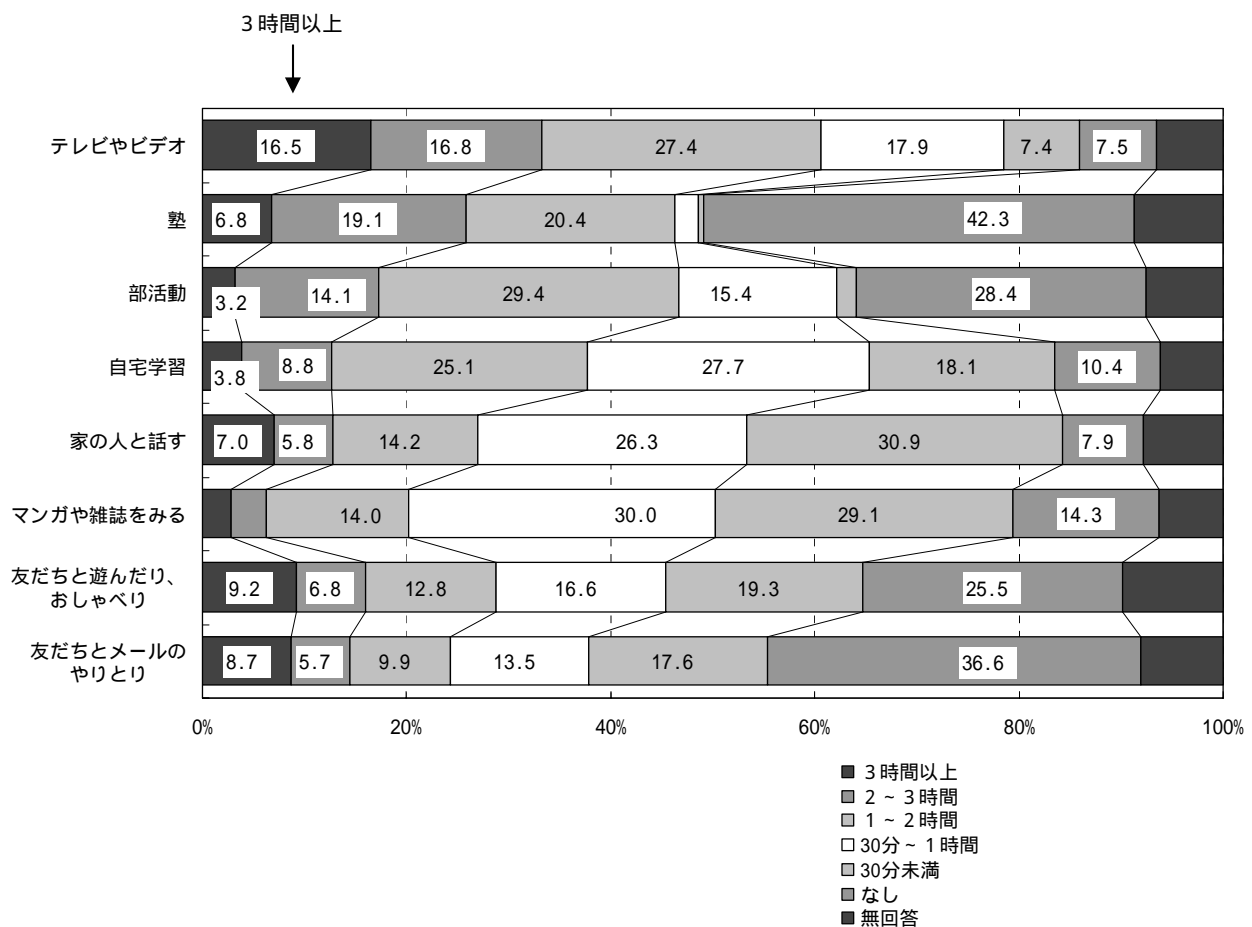
(注)「マンガや本を買う」は、中学年・高学年に質問。

インターネット以下の項目は、高学年のみに質問。

(2) 中学生

- ・中学生の放課後の過ごし方としては、まず、テレビやビデオをみる割合が高く、時間的には4割強が「1～2時間」ないし「2～3時間」としている【図表10】。
- ・塾には、約4割が「1～2時間」ないし「2～3時間」通うとしている一方、4割強は「なし」と回答。自宅学習は、半数強が「30分～1時間」ないし「1～2時間」行っている。
- ・部活動については、活動時間を「30分～1時間」ないし「1～2時間」とする割合が4割強あり、行っていない割合も約3割となっている。
- ・家の人と話すのは、6割弱が「30分未満」ないしは「30分～1時間」、また、マンガや雑誌をみている時間も同程度となっている。
- ・友だちと遊んだり、おしゃべりする時間は、4割弱が「30分未満」ないしは「30分～1時間」、またメールのやりとりは、約3割が「30分未満」ないしは「30分～1時間」行っている。

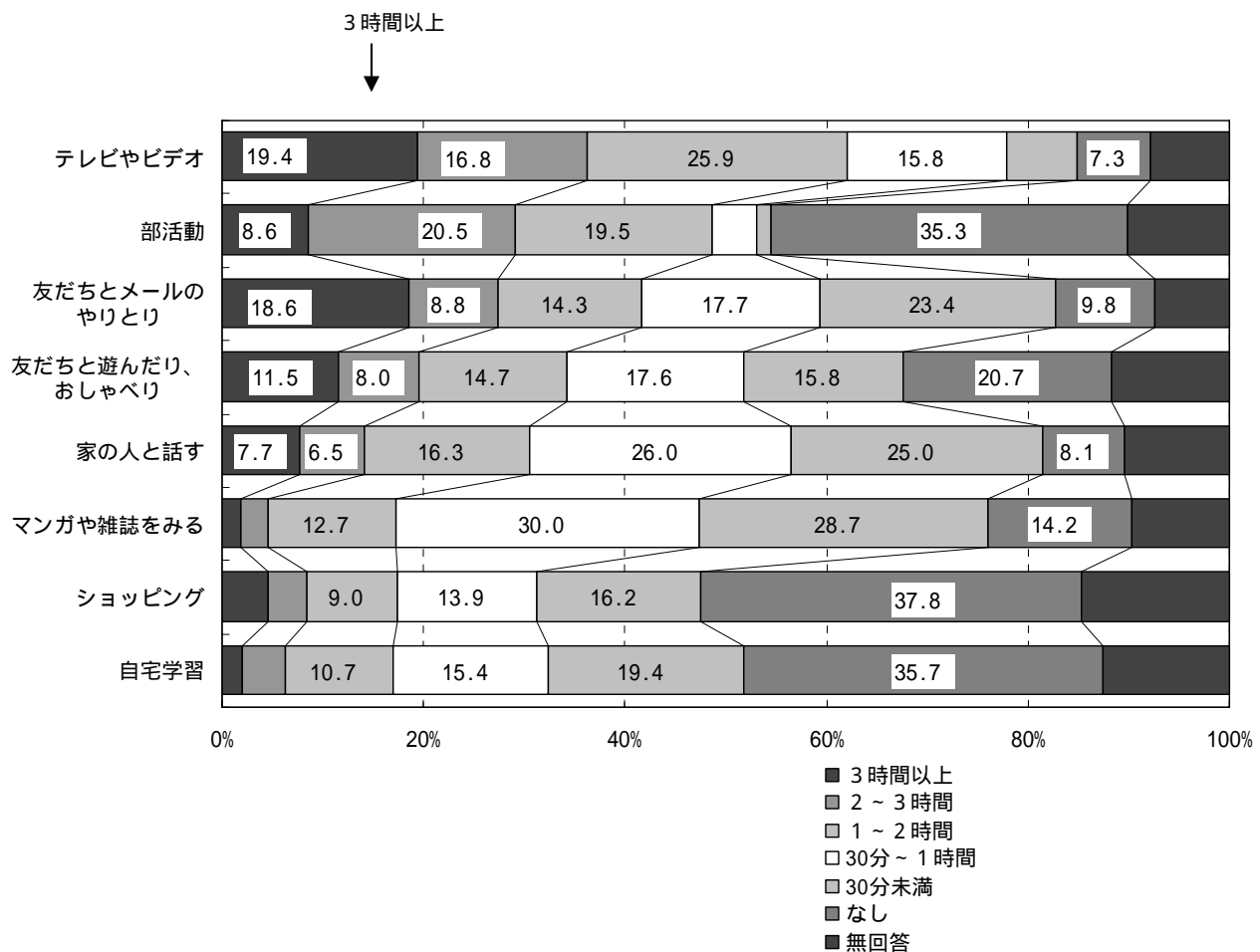
【図表10】中学生の放課後（複数回答）



### (3) 高校生

- ・ 高校生の放課後の過ごし方をみると、中学生同様、テレビやビデオをみるとする割合が高く、その時間は4割強が「1～2時間」ないし「2～3時間」としている。さらに約2割は「3時間以上」と回答している【図表11】。
- ・ 部活動は、「1～2時間」、「2～3時間」または「3時間以上」との回答が半数弱を占めている。一方で「なし」とする割合も4割弱となっている。
- ・ 友だちとのメールのやりとりについては、8割強が行っており、このうち2割弱は「3時間以上」と回答している。また、遊んだり、おしゃべりする時間は、3割強が「30分未満」ないしは「30分～1時間」としている。また、約2割は「なし」と回答している。
- ・ 家の人と話すのは、約5割が「30分未満」ないしは「30分～1時間」であり、マンガや雑誌をみている時間も6割弱が同程度となっている。
- ・ 自宅学習は3割強が「30分未満」ないしは「30分～1時間」と回答している一方、4割弱は「なし」と回答している。また、塾については、約7割が「なし」と回答しており、中学生の塾に行っていない割合（4割強）を上回っている。

【図表11】 高校生の放課後（複数回答）



#### 4. 持ち物・利用方法

##### (1) 専用の持ち物

- ・自分専用の持ち物についてみると、小学生は6割以上がテレビゲーム機を保有し(中学年6割強、高学年7割弱)、テレビの保有は1割強~2割、携帯電話は1割強となっている【図表12】。
- ・中学生では、約5割が携帯電話を保有、ステレオコンポを4割強が保有しており、高校生は、9割強が携帯電話、約6割がステレオコンポ、4割強がテレビを保有。テレビゲーム機は中学生が6割弱、高校生が5割弱となっている。
- ・男女別に見ると、小学生、中学生、高校生ともに、男子はテレビ、ビデオ再生機(DVDを含む)、テレビゲーム機の保有率が高く、女子は携帯電話、ステレオコンポの保有率が高くなっている。

【図表12】専用の持ち物(複数回答)

(%)

	テレビ	携帯電話	パソコン	ビデオ再生機(DVDを含む)	ステレオコンポ	テレビゲーム機
小学生						
中学年(全体)	14.3	12.1	10.9	14.7	8.4	62.4
男子	17.0	11.1	11.2	16.7	7.3	75.7
女子	11.4	13.1	10.5	12.6	9.6	48.4
高学年(全体)	21.2	13.5	11.6	17.4	18.5	66.4
男子	25.6	10.3	11.8	19.6	14.2	82.0
女子	16.8	16.8	11.2	14.9	22.8	50.8
中学生(全体)	29.9	50.4	14.3	20.4	44.1	55.3
男子	34.8	44.9	15.7	23.6	39.7	73.9
女子	23.9	56.8	12.5	16.6	49.4	32.9
高校生(全体)	43.1	94.6	18.6	32.0	61.6	45.3
男子	53.9	92.7	22.2	41.1	58.5	72.6
女子	34.8	96.6	15.8	25.0	64.4	24.2

(注)小学生では「ビデオ再生機(DVDを含む)」は「ビデオ・DVDのきかい」。

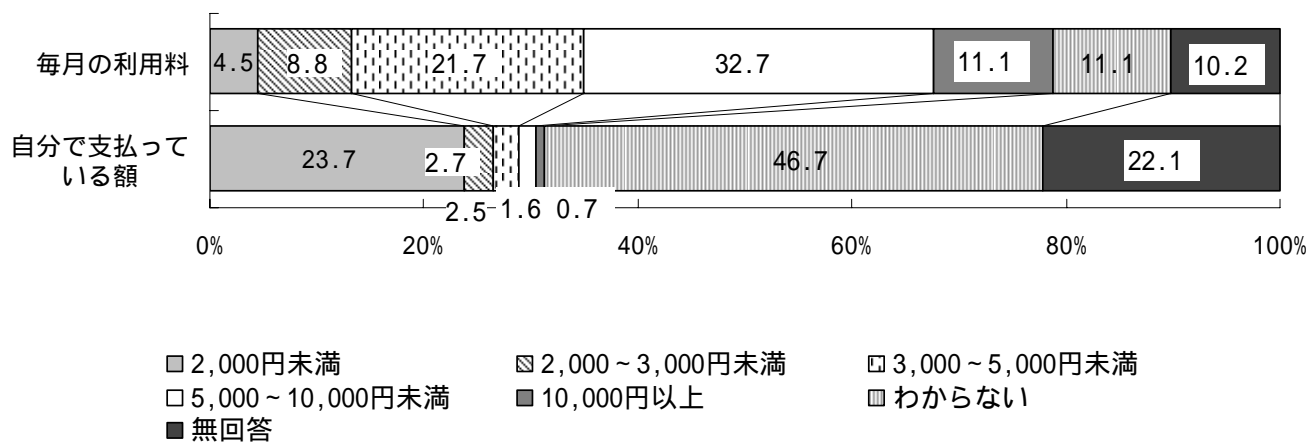


## (2) 携帯電話の利用料と支払額

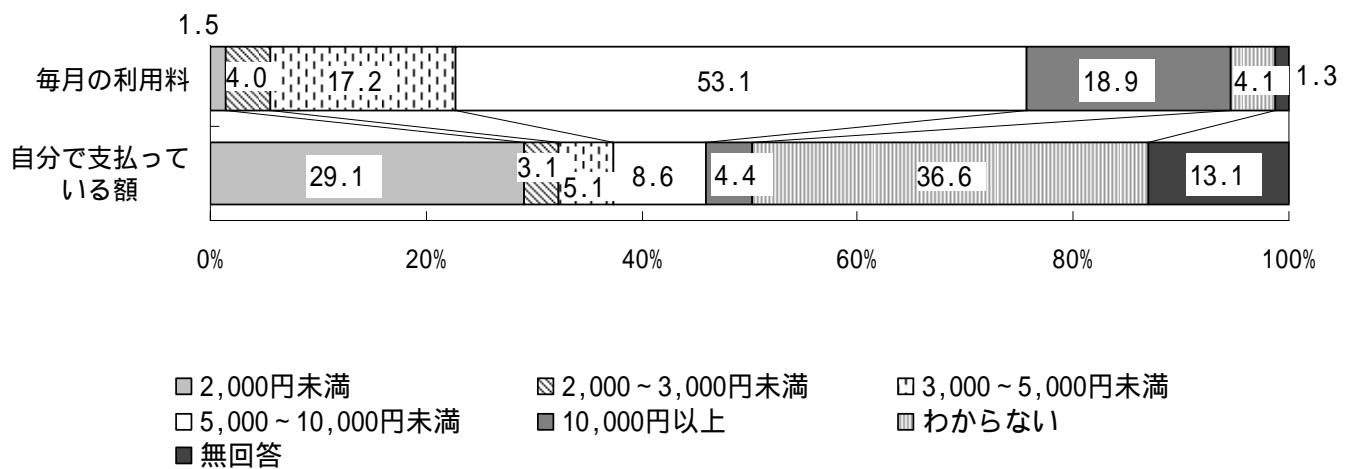
- ・携帯電話の利用料は、中学生の3割強、高校生の5割強が「5,000～10,000円未満」と回答しており、次いで中学生の2割強が「3,000～5,000円未満」、高校生の2割弱が「10,000円以上」と回答【図表13】。
- ・利用料の負担額については、中学生・高校生とも自分で支払っている額を「わからない」とする回答が最も多く、次に、「2,000円未満」の割合が高い(中学生2割強、高校生約3割)。

【図表13】携帯電話の利用料と自分で支払っている額

<中学生>



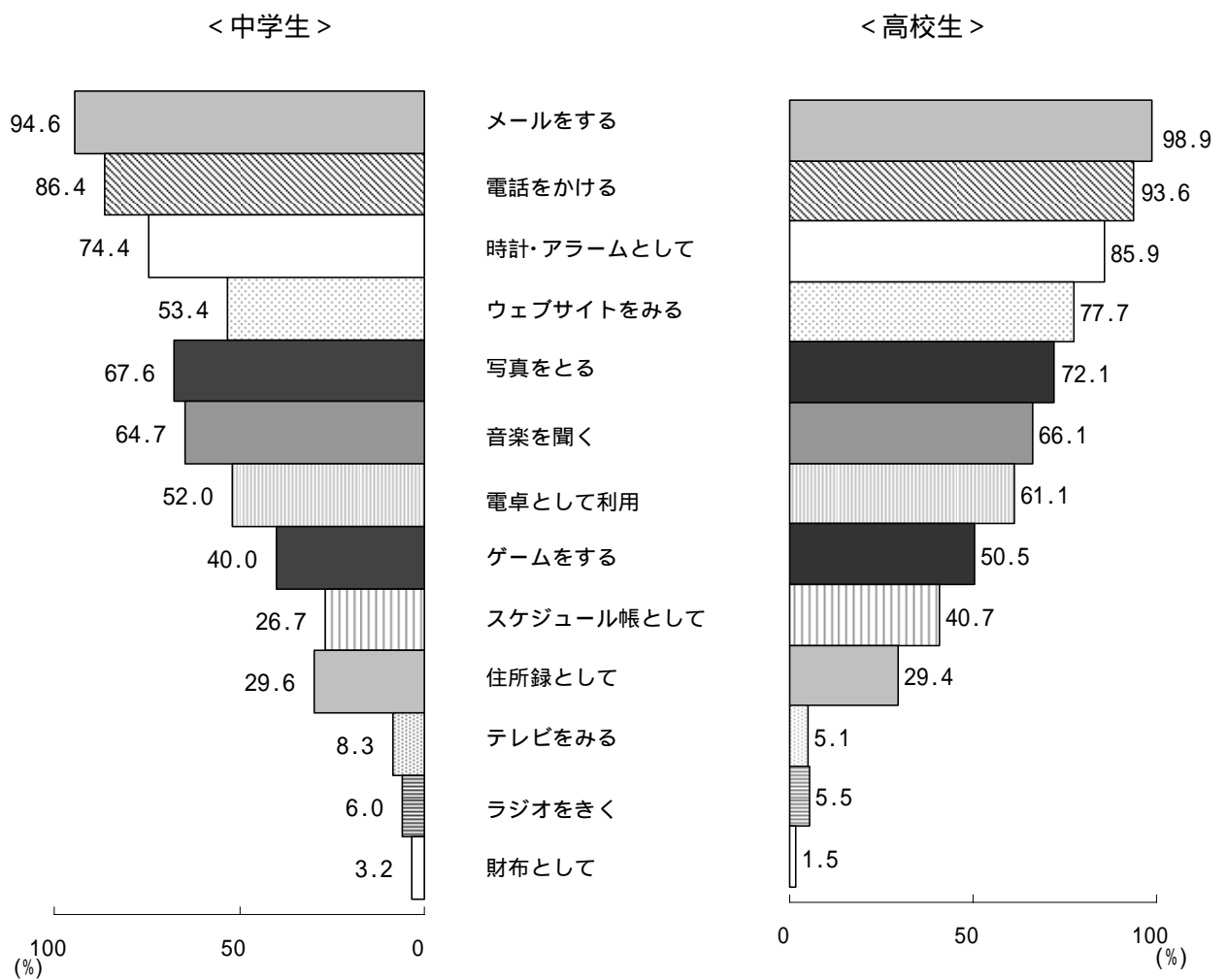
<高校生>



### (3) 携帯電話の利用方法

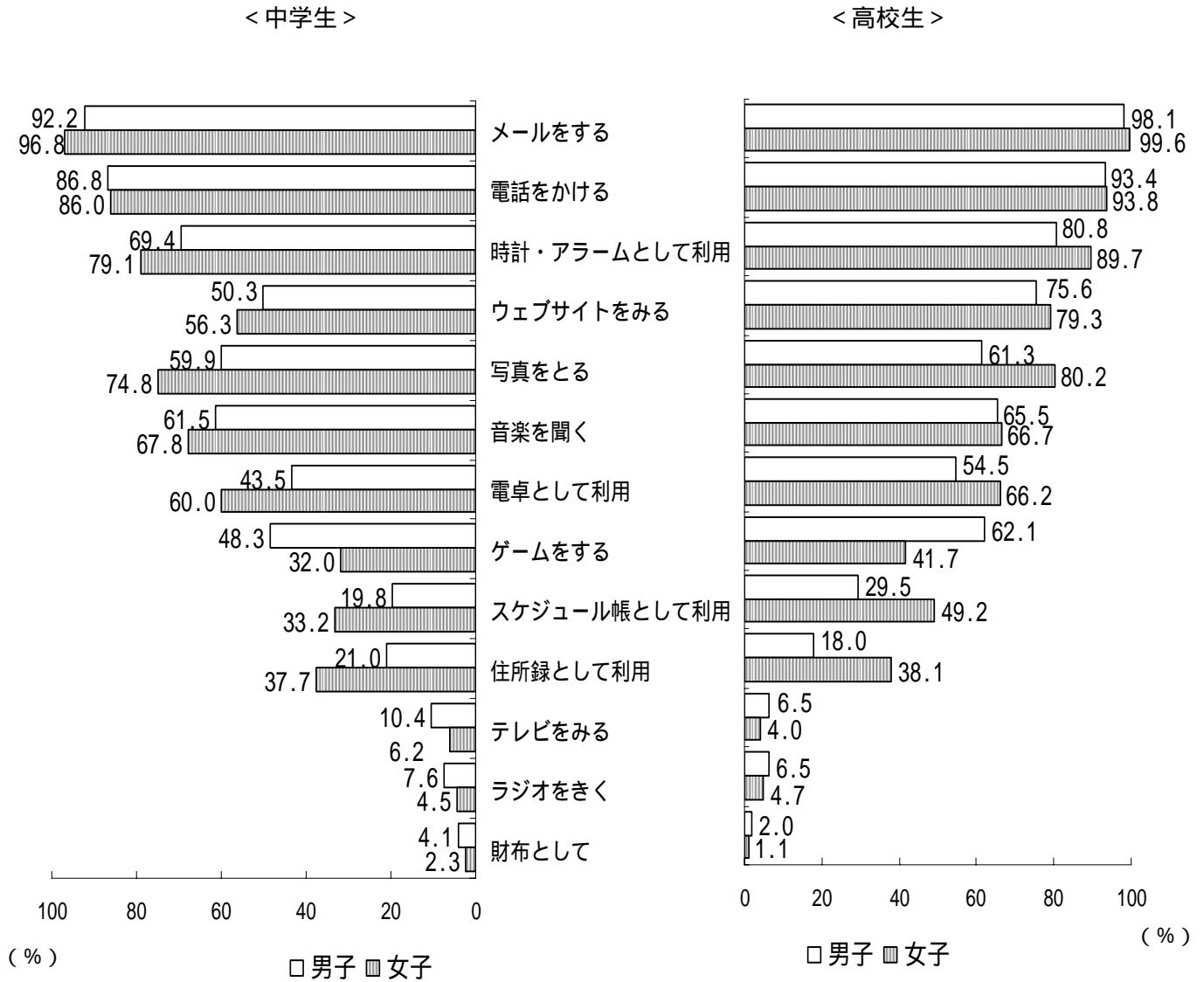
・携帯電話の利用方法についてみると、中学生・高校生とも「メールをする」、「電話をかける」、「時計・アラームとして利用」、「ウェブサイトを見る」、「写真をとる」、「音楽を聞く」などの利用方法が上位を占めている【図表14】。このうち「ウェブサイト」については高校生の8割弱が「みる」と回答し、中学生の5割強を大きく上回り、他の利用方法と比べ差のつく結果となっている。

【図表14】携帯電話の利用方法



・男女別に見ると、中学生・高校生とも女子の方が男子に比べ「写真をとる」、「電卓として利用」、「住所録として利用」、「スケジュール帳として利用」と回答した割合が1～2割高く、逆に男子では「ゲームをする」との回答が女子を上回った【図表 15】。

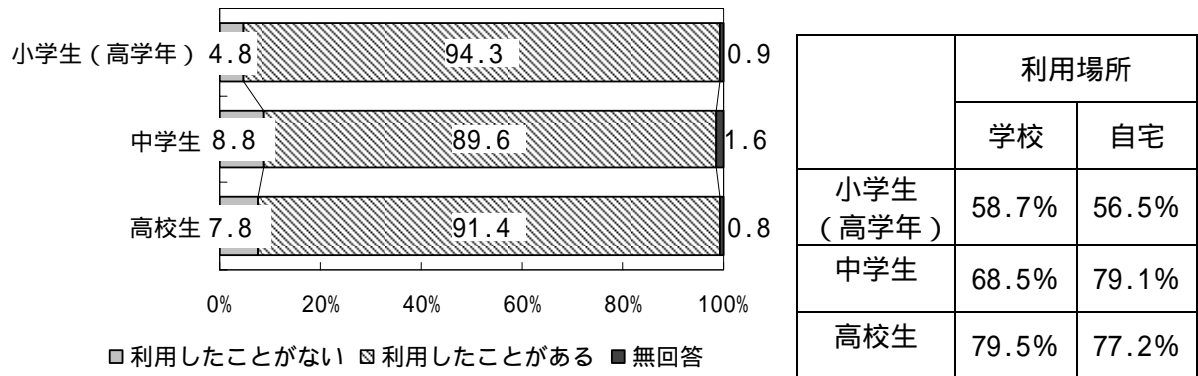
【図表 15】携帯電話の利用方法（男女別）



#### (4) インターネット

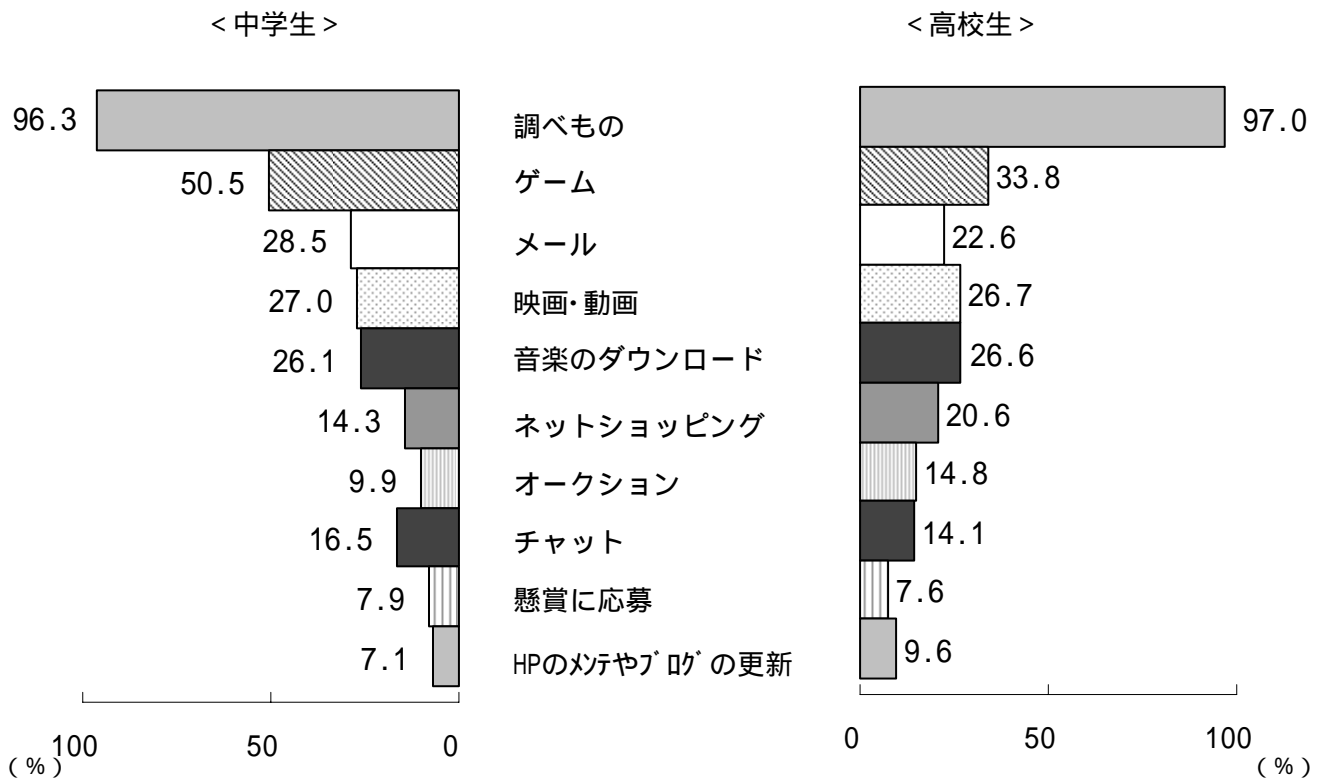
・インターネットの利用状況についてみると、小学生（高学年）、中学生、高校生のいずれも約9割が「利用したことがある」と回答し、利用場所は、学校および自宅が多い【図表16】。

【図表16】インターネットの利用経験と利用場所



・インターネットの利用目的については、ほとんどの中学生・高校生が「調べものをするとき」と回答【図表17】。ゲームやメールをする割合は中学生の方が高く、ネットショッピングやオークションの利用になると高校生の方が高い。

【図表17】インターネットの利用目的

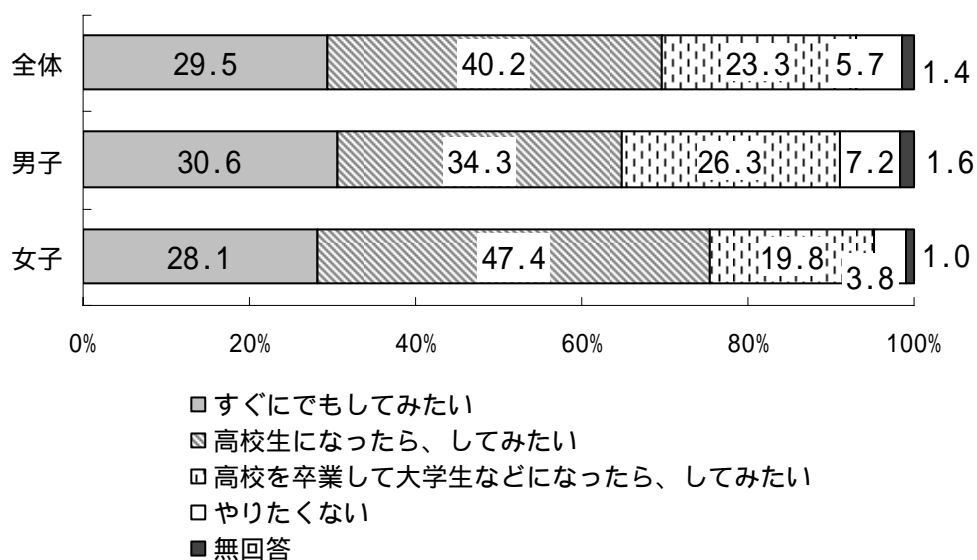


## 5. アルバイト

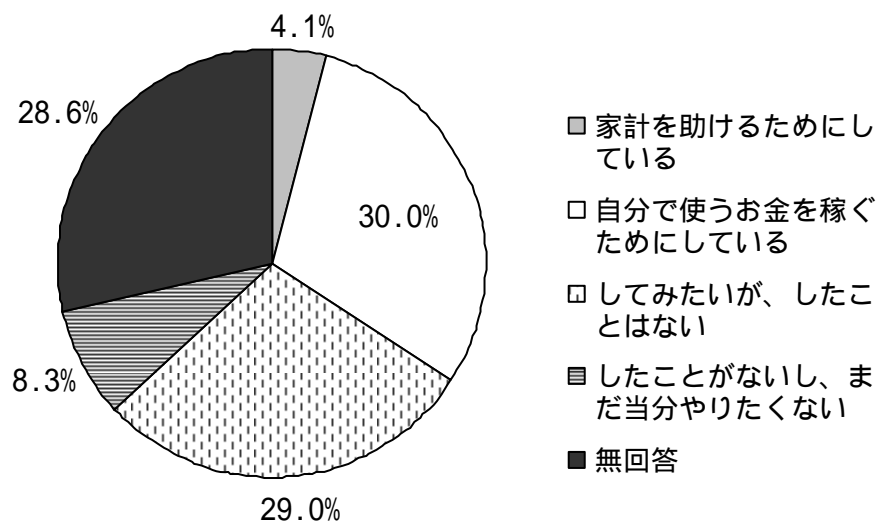
・アルバイトについては、中学生の約4割が「高校生になったら、してみたい」、約3割が「すぐにでもしてみたい」と回答【図表18】。この点を男女別にみると、女子の5割弱が「高校生になったら、してみたい」と回答しており、男子の回答割合を上回っている。高校生では、3割が「自分で使うお金を稼ぐためにしている」と回答、また約3割が「してみたいが、したことはない」と回答している。

【図表18】アルバイトについて

<中学生>



<高校生>

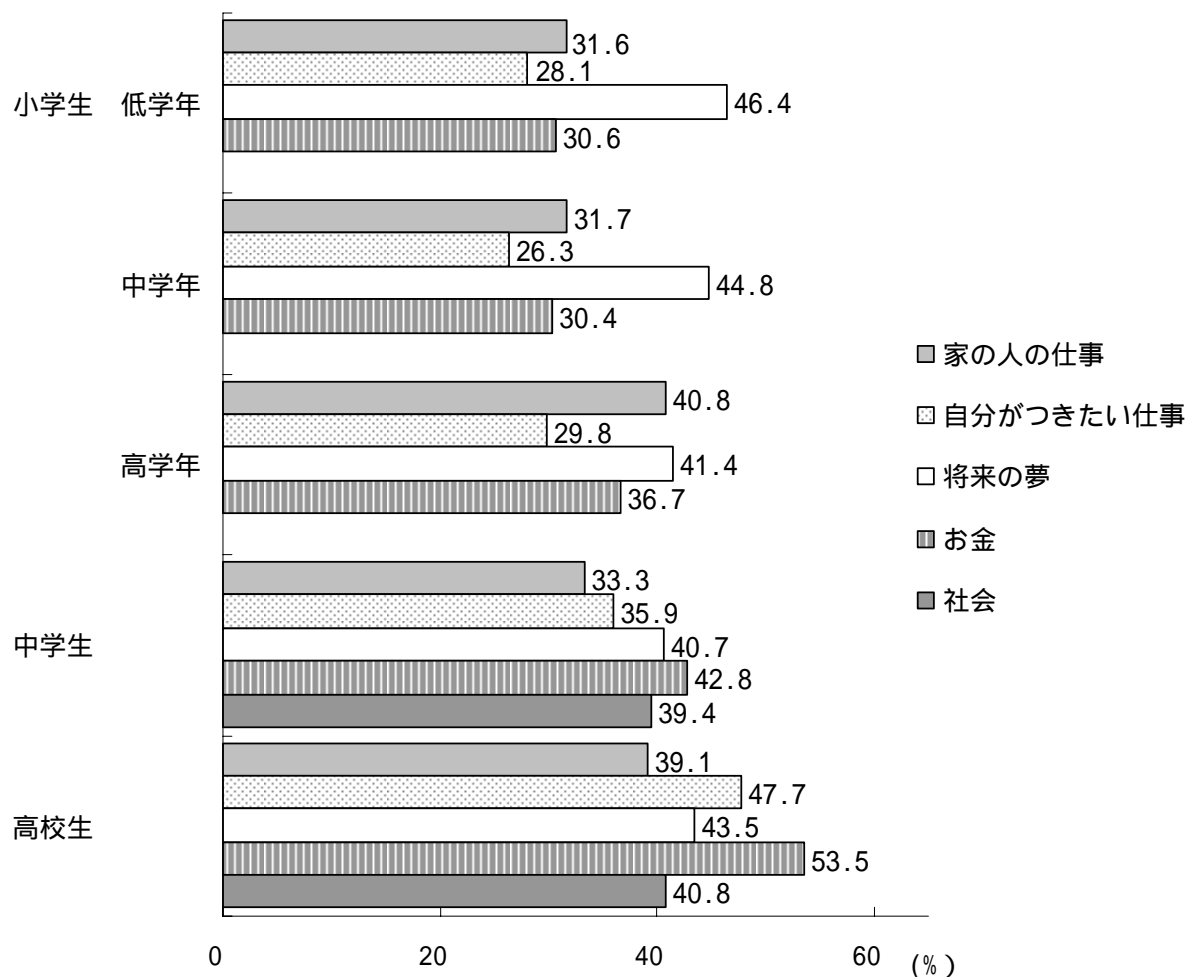


## 6. 親との会話・友だちとの会話

### (1) 親との会話

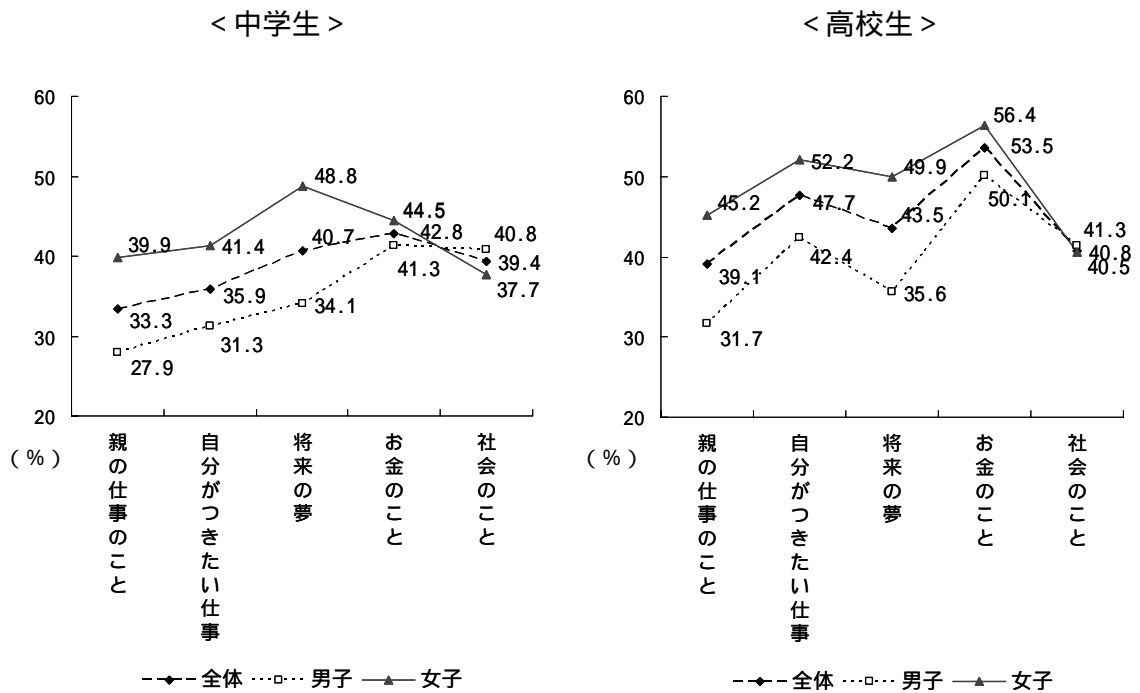
- ・親とする会話についてみると、学年が進むにつれ会話時間が減少傾向にある中、小学生は約4～5割弱が「将来の夢」、次いで「家の人の仕事のこと」(約3～4割)についても話している。また中学生・高校生では「お金のこと」についての会話が多い【図表19】。
- ・男女別に親との会話をみると、女子の方が男子よりも話す割合が高い【図表20】。
- ・また、前記「3. 放課後の過ごし方」の「家の人と話す」時間との関係を見ると、会話時間の長い方が、すべての話題について話す割合が高くなっている【図表21】。

【図表19】親との会話



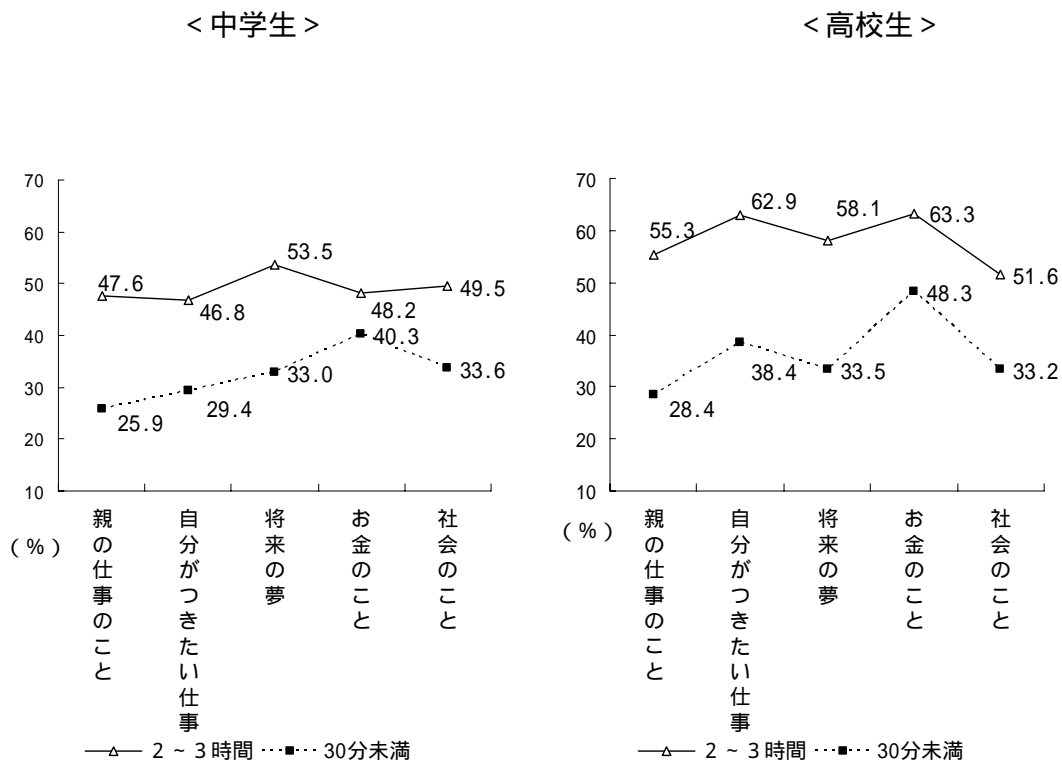
(注) 中学生・高校生では「家の人の仕事」は「親の仕事」。

【図表 20】親との会話（男女別）



【図表 21】親との会話時間と内容との関係

「放課後に親と話す」と回答した回答者の親との会話時間（問 12）と会話の内容（問 16）との関係

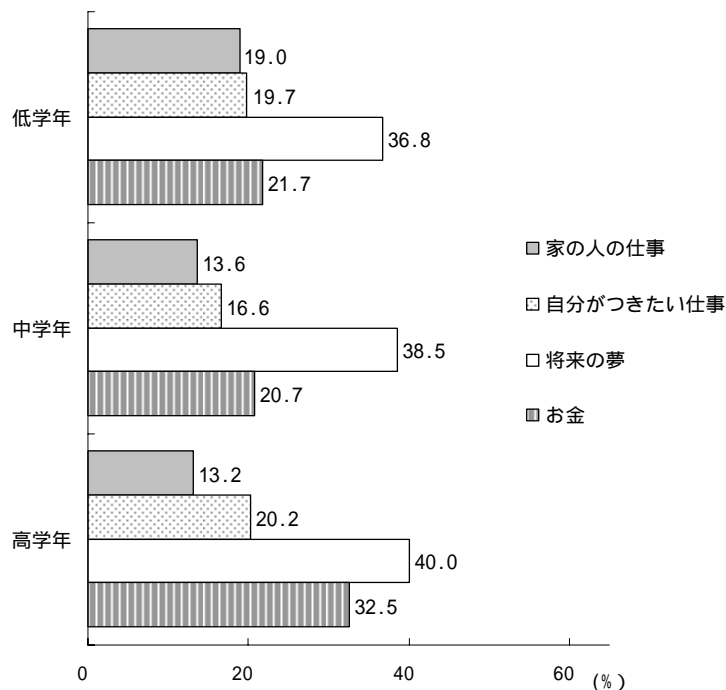


## (2) 友だちとの会話

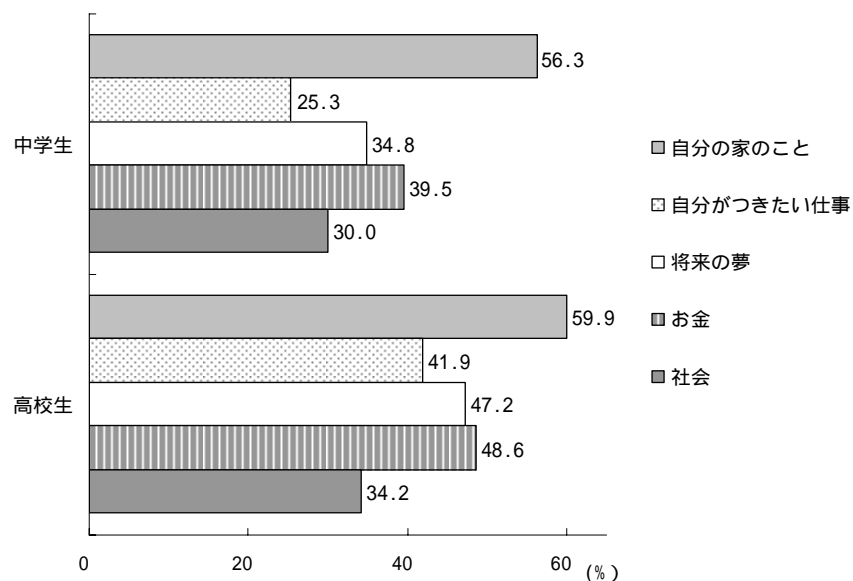
- ・友だちとの会話では、小学生は「将来の夢」(約4割)に次いで「お金のこと」(2～3割)に関する会話が多い。中学生・高校生では、「自分の家のこと」(中学生が6割弱、高校生は約6割)が最も多く、次いで「お金のこと」、「将来の夢」となっている(中学生3～4割、高校生5割弱)【図表22】。
- ・男女別にみると、女子は男子に比べ「自分の家のこと」、「自分がつきたい仕事」、「将来の夢」について友だちとよく話している【図表23】。

【図表22】友だちとの会話

### <小学生>



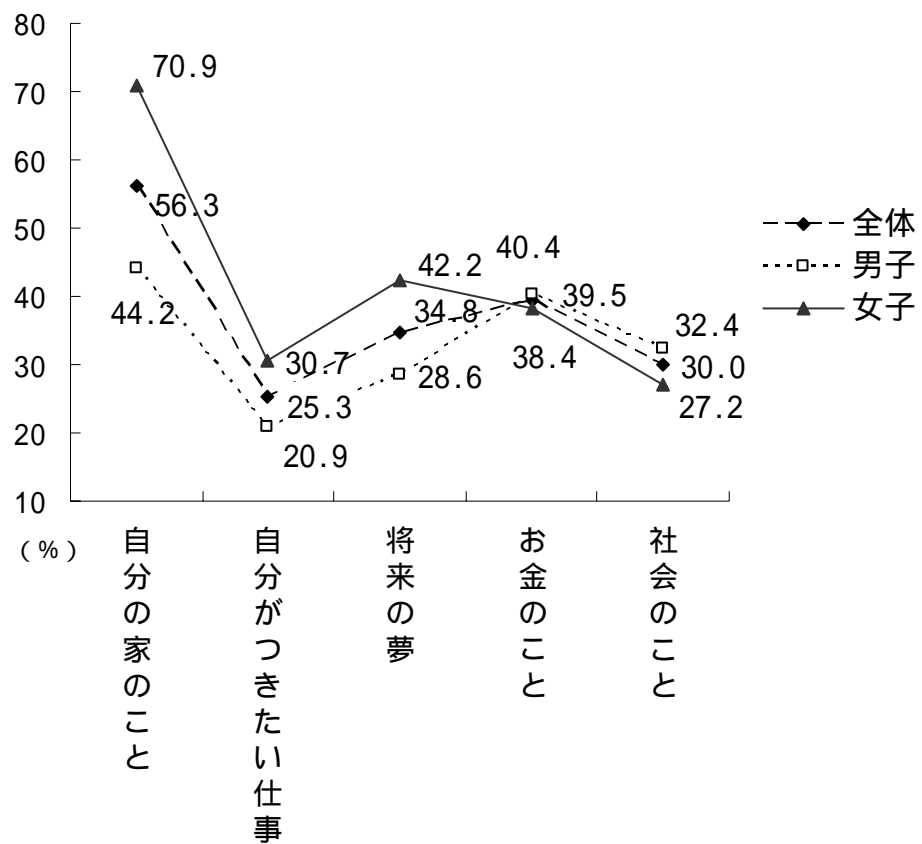
### <中学生・高校生>



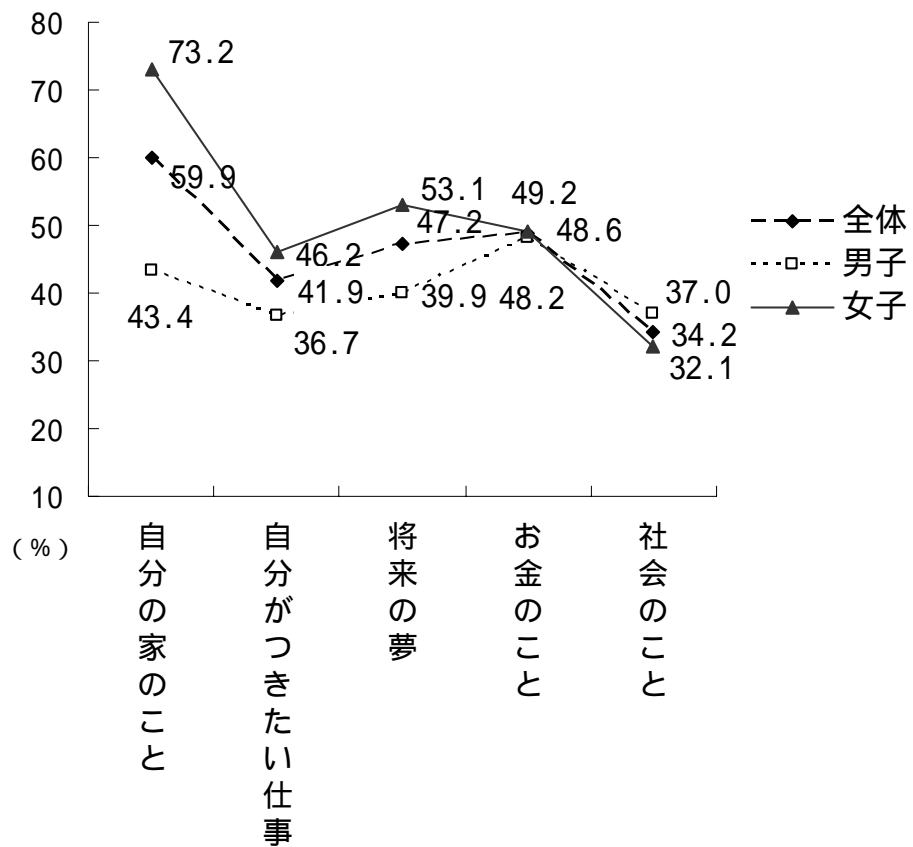


【図表 23】 友だちとの会話（男女別）

< 中学生 >



< 高校生 >



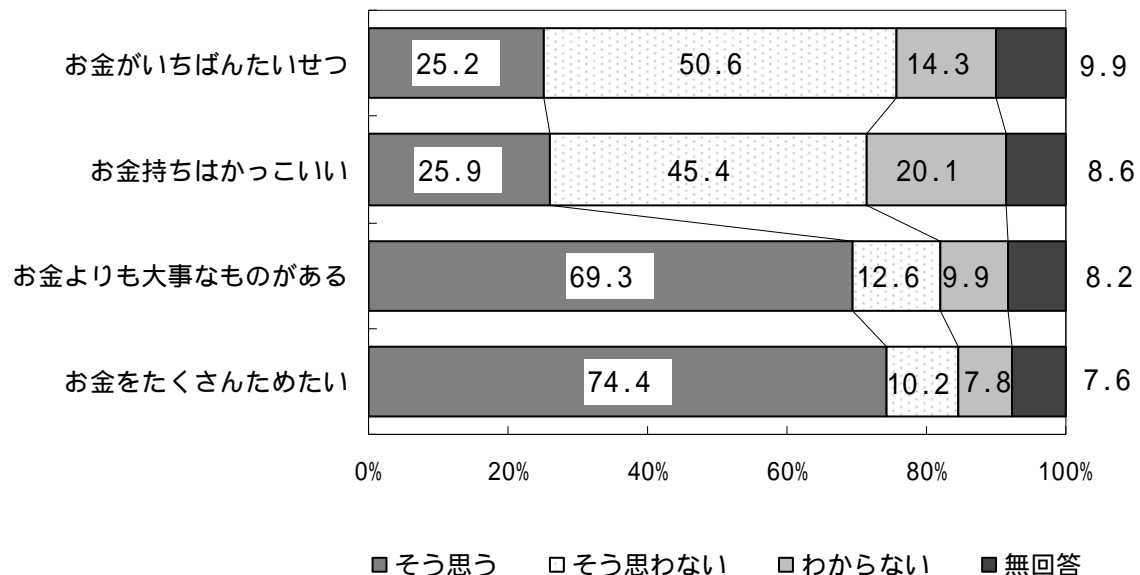
## 7. お金についての意識

### (1) 小学生

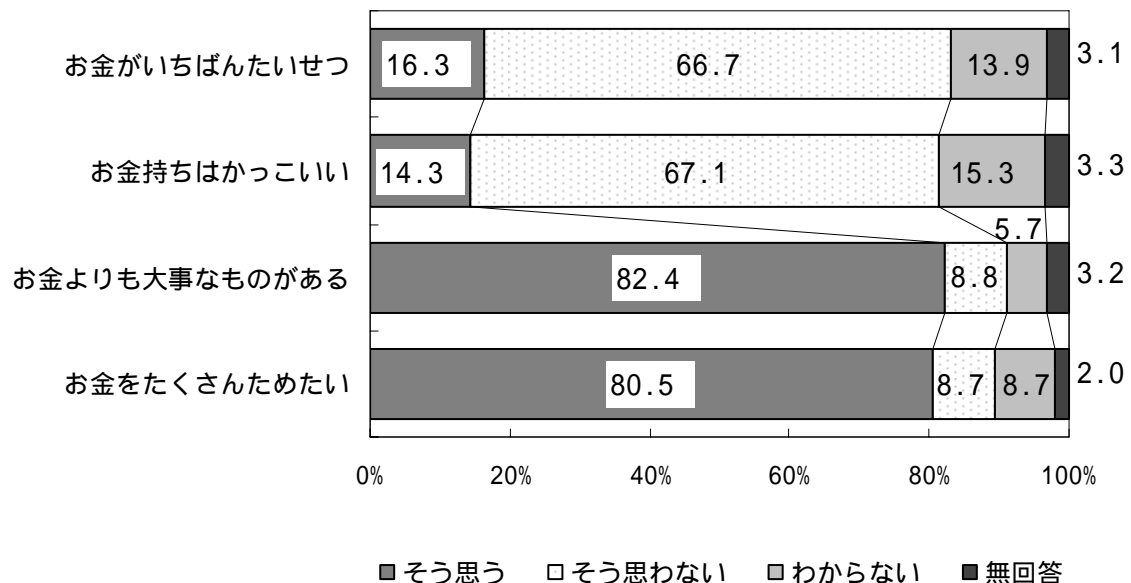
・お金についての意識をみると、小学校の低学年では、「お金が一番たいせつ」、「お金持ちはカッコいい」が3割弱と小学生の中では最も高い【図表24】。  
 ・中学年・高学年では、「お金が一番たいせつ」、「お金持ちはカッコいい」については「そう思わない」との回答が7割前後と、「そう思う」(1割強ないし2割弱)を大幅に上回った。「お金をたくさんためたい」については、約8~9割弱が「そう思う」と回答。また、「お金よりも大事なものはある」について「そう思う」とする回答は8割強となった。

【図表24】 お金についての意識 (小学生)

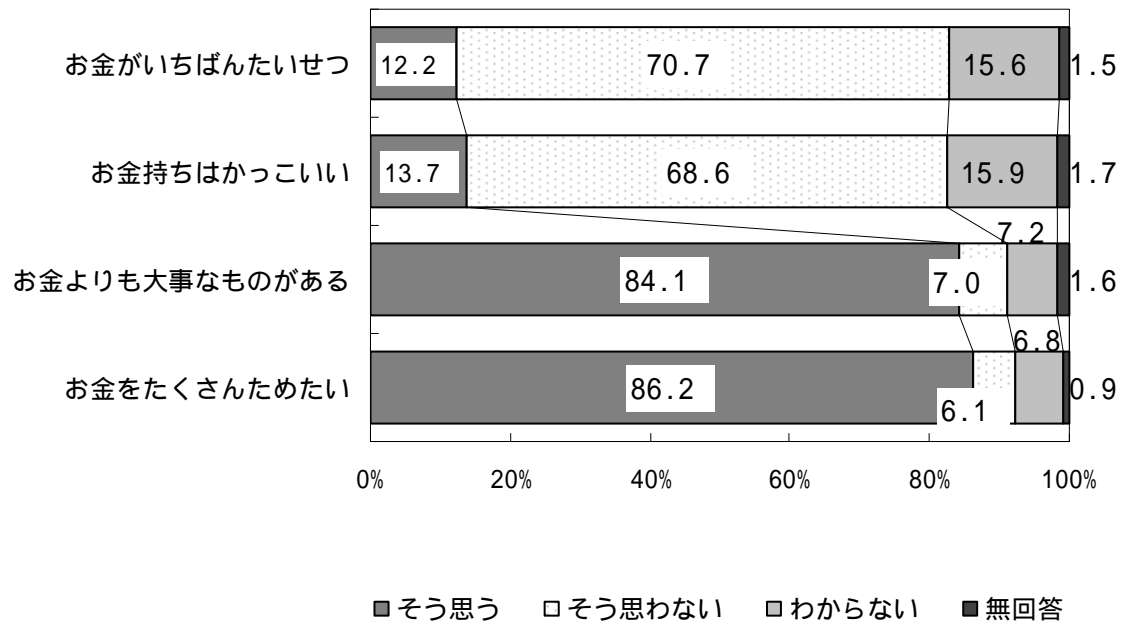
#### <小学生(低学年)>



#### <小学生(中学年)>



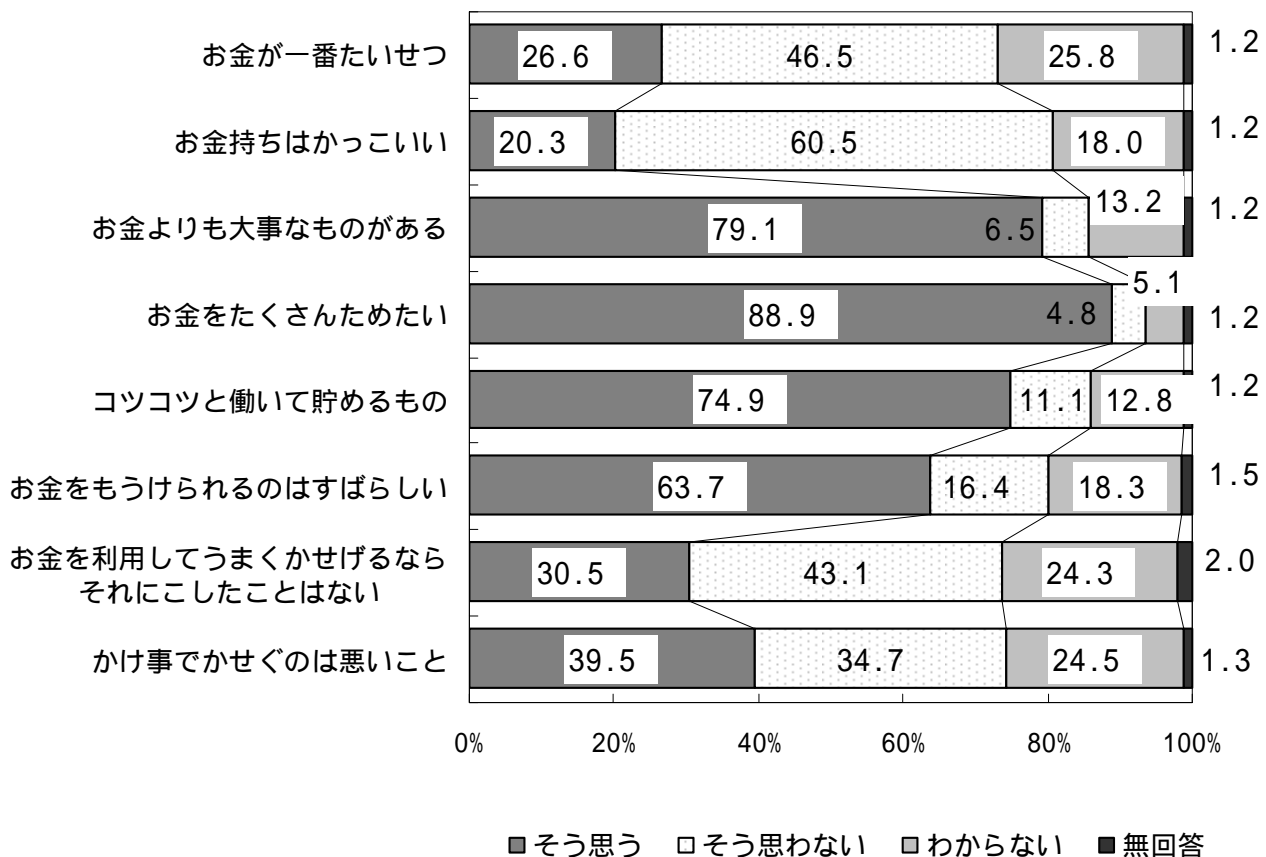
<小学生（高学年）>



(2) 中学生

- ・中学生では、「お金が一番たいせつ」、「お金持ちはカッコいい」については「そう思わない」との回答がそれぞれ5割弱、約6割と、「そう思う」(各3割弱、約2割)を上回った。また、「お金よりも大事なものがある」について「そう思う」とする回答は約8割となっている【図表25】。
- ・「お金をたくさんためたい」については、約9割が「そう思う」と回答し、「お金はコツコツと働いてためるもの」との考え方について7割強が「そう思う」と回答。
- ・お金を儲けることについては、「お金をもうけられるのはすばらしい」との考えについて6割強が「そう思う」と回答している。
- ・お金の稼ぎ方についてみると、「お金を利用してうまくかせげるなら、それにこしたことはない」について「そう思わない」が4割強、「そう思う」が約3割、「かけ事でかせぐのは悪いこと」については、「そう思う」が約4割、「そう思わない」が3割強となった。

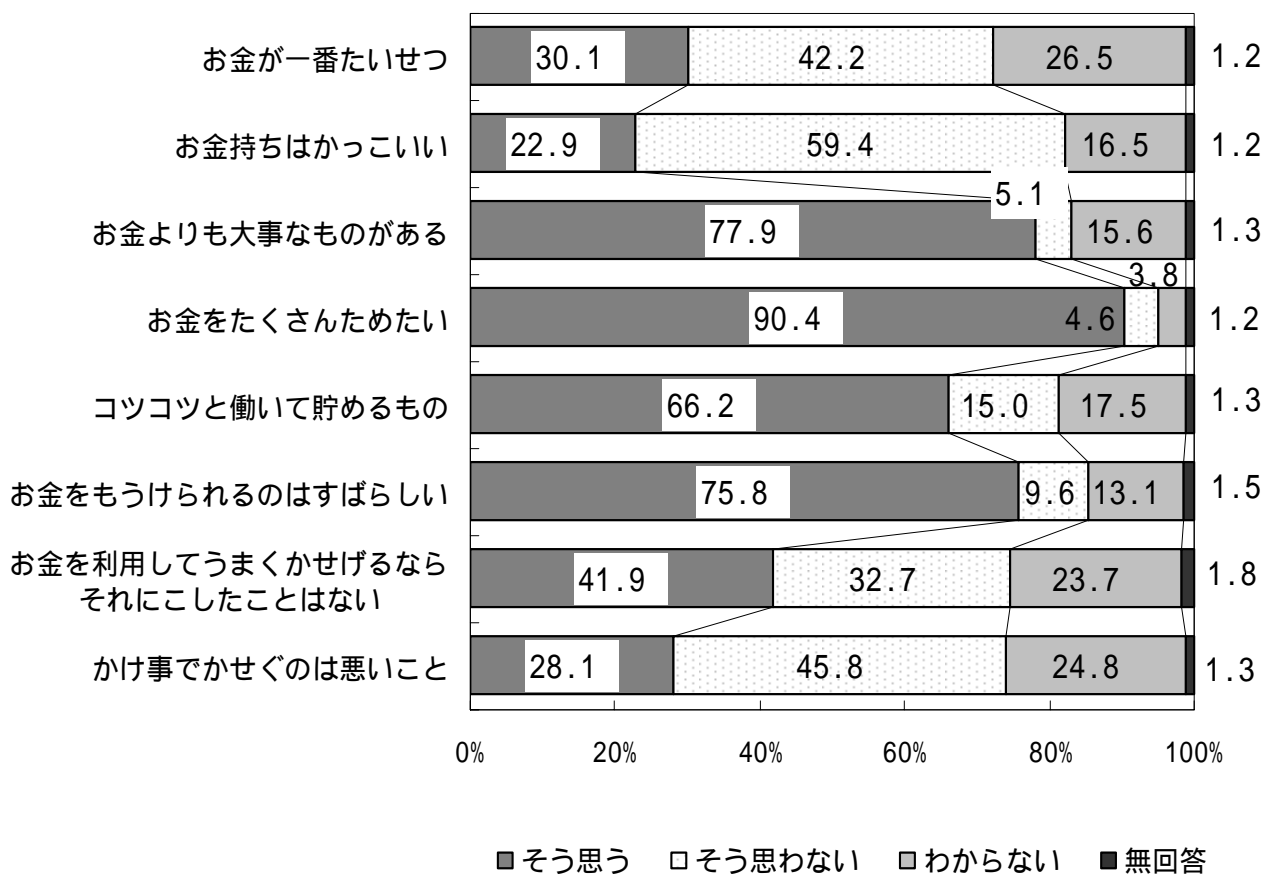
【図表25】 お金についての意識 (中学生)



(3) 高校生

- ・高校生では、「お金が一番たいせつ」、「お金持ちはカッコいい」について「そう思わない」との回答がそれぞれ4割強、約6割と、「そう思う」(各約3割、2割強)を上回った。また、「お金よりも大事なものがある」について「そう思う」とする回答は8割弱となっている【図表26】。
- ・「お金をたくさんためたい」については、約9割が「そう思う」と回答し、「お金はコツコツと働いて貯めるもの」との考え方について7割弱が「そう思う」と回答。
- ・お金を儲けることについては、「お金をもうけられるのはすばらしい」との考えについて8割弱が「そう思う」と回答している。
- ・お金の稼ぎ方についてみると、「お金を利用してうまくかせげるなら、それにこしたことはない」について「そう思う」が約4割、「そう思わない」が3割強、「かけ事でかせぐのは悪いこと」については、「そう思わない」が5割弱、「そう思う」が約3割となった。

【図表26】 お金についての意識 (高校生)



## 8. 金融経済の知識

- ・金融や経済に関する知識についてみると、正答率が8～9割と高いものと1～2割の低いものに分かれている【図表27】。正答率が高いのは、「日本のお金と外国のお金は同じである（誤）」（小学校中学年は9割弱、高学年は約9割）、「お金はだれでもつくりすることができる（誤）」（小学校中学年・高学年とも9割弱）中学生・高校生では、「株価は毎日変動する（正）」（中学生7割強、高校生9割弱）、「保険は万一の備えである（正）」（中学生8割弱、高校生8割強）などである。
- ・正答率が低いのは、「銀行や郵便局に貯金すると、利子をつけてかえしてくれる（正）」、「銀行はお金を貸してくれるところである（正）」、「契約はすべて書類に記名し、印を押すことで成り立つ（誤）」、「日本銀行の金融政策は、現在、主にオープンマーケットオペレーションである（正）」などである（この間「銀行は預金を企業に貸し出している（正）」も中学生の約4割、高校生の約6割の正答率）。

【図表27】 お金に関する知識について

小学校中学年		
正答率		(%)
1位	お金はだれでもつくりすることができる×	87.7
2位	日本のお金と外国のお金は同じである×	85.7
3位	コインのほうがおさつよりもものをたくさん買うことができる×	63.9
正答率ワースト		(%)
1位	ぎんこうやゆうびんきょくにちょきんすると、りしをつけてかえしてくれる	20.1
2位	日本のお金は、10しゅるいある	32.0
3位	ものを買うときには、いっしょにぜいきんをはらっている	32.4

小学校高学年		
正答率		(%)
1位	日本のお金と外国のお金は同じである×	88.7
2位	お金はだれでもつくりすることができる×	87.1
3位	図書カードは、本屋ではお金と同じように使うことができる	72.7
正答率ワースト		(%)
1位	銀行はお金を貸してくれるところである	25.7
2位	市場（しじょう）はもののねだんが決まるところである	27.8
3位	銀行やゆうびん局に貯金すると、利子（りし）をつけてかえしてくれる	36.9

中学生		
正答率		(%)
1位	買った物が欠陥商品だった場合、交換や返品ができることがある	81.8
2位	い外店で借りたCDを期限までに返せない場合、延滞金を払わなければならない	80.4
3位	保険は万一の場合の備えである	77.8
4位	株価は毎日変動する	74.5
正答率ワースト		(%)
1位	契約はすべて書類に記名し、印を押すことで成り立つ×	12.3
2位	家計に占める教育費の割合のことをエンゲル係数という×	15.7
3位	金融政策を行うのは、日本銀行である	23.2
3位	代金前払い方式のカードをクレジットカードという×	23.2

高校生		
正答率		(%)
1位	い外店で借りたCDを期限までに返せない場合、延滞金を払わなければならない	86.3
2位	株価は毎日変動する	85.5
3位	買った物が欠陥商品だった場合、交換や返品ができることがある	85.4
4位	保険は万一の場合の備えである	83.6
正答率ワースト		(%)
1位	日本銀行の金融政策は、現在、主にオープンマーケットオペレーションである	20.8
2位	契約はすべて書類に記名し、印を押すことで成り立つ×	22.4
3位	1,000円についた50円の利子を含めて年利5%で1年預けると約52円の利子がつく	22.6
4位	家計に占める教育費の割合のことをエンゲル係数という×	30.8

以 上